

ヨシ帯造成事業のあり方

意見書

ブライアン ウィリアムズ

終戦後、人間活動により琵琶湖周辺のヨシ群落の面積が圧倒的に減らされて来ました。

まず内湖の干拓事業で、飛行場を含む伊丹市の広さ以上の面積が消えました。続いて琵琶湖総合開発事業により湖岸沿いのヨシ群落の大部分（7～9割）が破壊されました。

当時の開発のあり方に疑問を持った学者団体がヨシの重要性を訴えましたが、無視されてしまいました。遅すぎると言える時期になって、ヨシの大切さが認められ、ヨシ保護条例ができ、更にヨシ帯造成対策が生まれました。遅かりしですが、こうしてヨシ群落の大切な役割がやっと認められるようになったのはありがたいことです。

しかし、そのヨシ帯造成事業のあり方を探ってみると、大きく疑問を持つようになります。数年前から県の水産課が最初、今津町と長命寺港近辺、現在は琵琶湖博物館の南に広がる津田江入江でこの事業を行っています。続いて、湖北の早崎内湖近辺で広範囲にこの事業を予定して、すでに工事の一部が着工されています。

聞くところによると、水産課の設計したヨシ帯造成工事は1ヘクタール当たり、12億円かかるそうです。その内実際ヨシを植えることにかかる費用は、多くて4分の1に過ぎません。残りは石垣、離岸堤、又はバラスの入った針金でできた“ふとん籠”等に使われるそうです。なぜ12億円もかかるのでしょうか。経験者の話しを聞くと、ヨシは適正な場所に植えれば、ヨシ自体が勝手に増え、調子良く育って持続するヨシ帯になっていく、でも不適切な場所に植えられるとかなり無理をしないと成果がさほど期待できないということです。

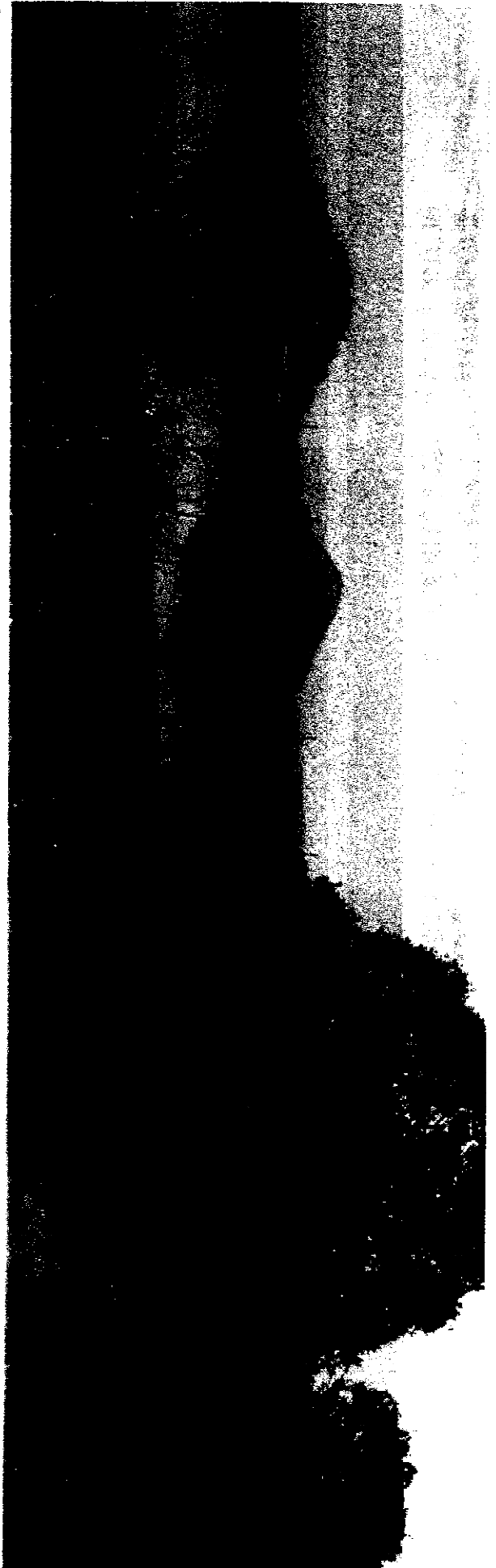
1ヘクタール12億円。水産課が今のあり方でのヨシ造成工事で成果があると言いつけていますが、どこまでの成果があるかという事を裏付けるデータがさほど出されていません。しっかりした研究に基づいて、十分な成果を証明

した上でないと何億円も使い続ける事に意味があるのでしょうか。費用対効果のバランスは適正でしょうか。きっとこのことをふまえて、景観破壊も加えて浅井漁業協同組合が造成事業を許可しなかったのでしょうか。

更に、大切なポイントとして、景観問題です。水産課のすでに行った工事と予定してる工事の場所は、なぜかすべて琵琶湖の原風景がまだかろうじて残っていた所、そして、まだ残っている所であります。こういった(資料写真参照)野性味があって、近自然な状態で生き残っている場所は広い琵琶湖の中でも極めて少ないのです。どうしてそういう所に限って美意識がゼロと言えるような設計で工事をするようになったのでしょうか。今は消えてしまってますが、昔、広く続いていたヨシ群落のあった所が沢山あります。どうしてそういう所こそ復元しようとしませんか？

今までも、これから工事を行おうとしている所も、まだなんとかかろうじて自然が残っている所なのです。これ以上人の手を人工的に入れてはいけない所なのです。

水産課のヨシ造成工事の設計は景観に対する美意識が欠けていると言える上に、生態系学の理解も少ないと言えます。ヨシだけを増やせばよいといっているようです。安定した持続可能なヨシ群落という生態系の中に、ヨシ意外に色々な種類の動植物が共存しています。こういった“安定型”ヨシ群落生態系を復元しないと、モロコ、ニゴロ鮒などの安定した人口を支えることが不可能です。南湖の漁師の名言に“魚は自然が好き”、この言葉を忘れる事なくヨシ帯造成事業を進めていかないと、景観破壊と共に税金の無駄遣いとなります。



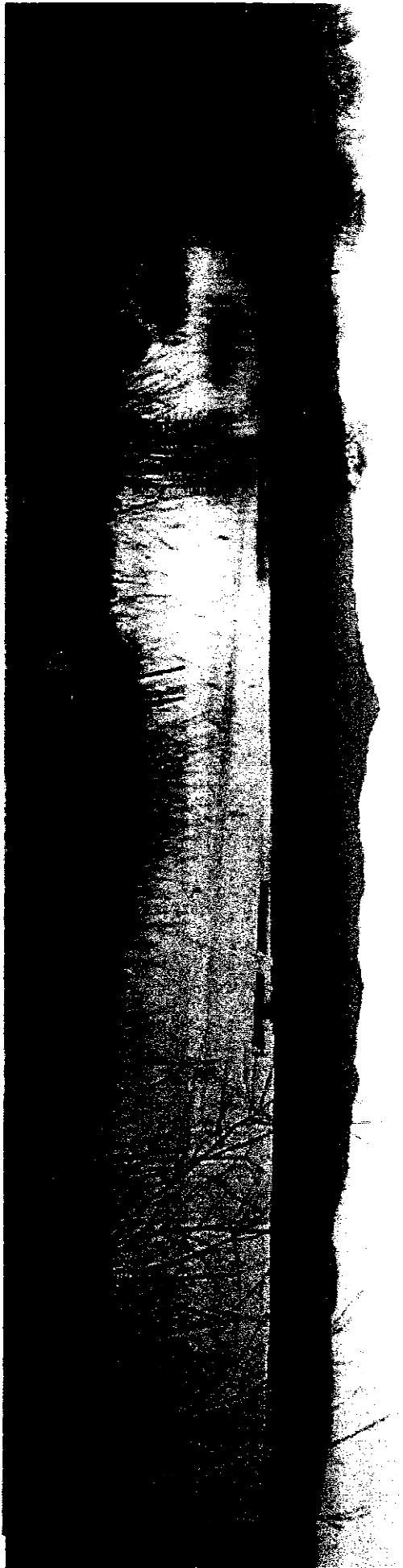
1-a

誰も知らない風致地区、草津市にあるつだえ...



1-b

遠景に三上山、比叡山、比良など
近景には野性味の残っている湖の原風景



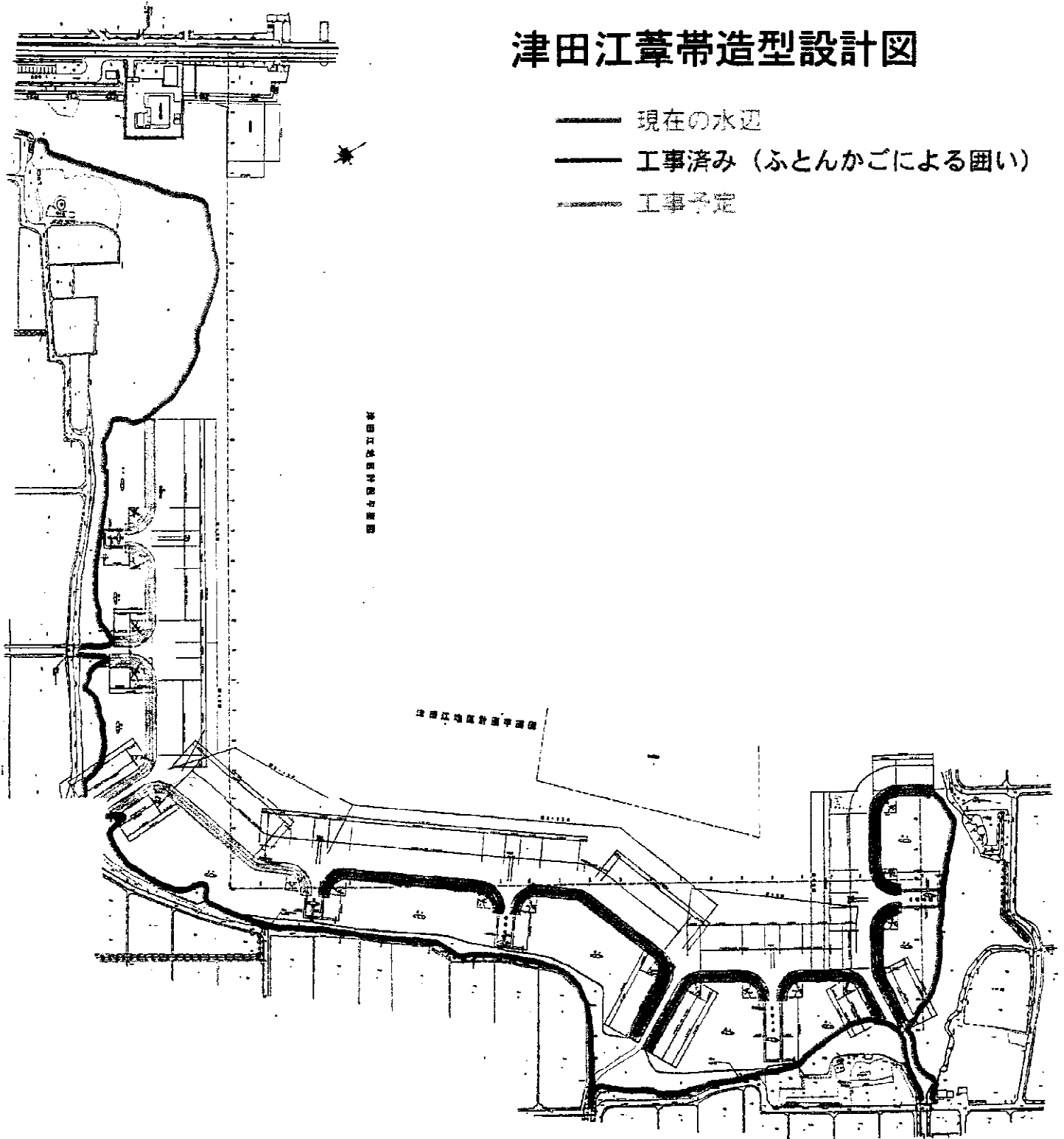
2-a この美しい風景がこの秋に県の水産化の事業により



2-b 直線化され台無しにされます。
その事業の目的を果たすのに、もっと良い方法があるのではないですか。

津田江葦帯造型設計図

- 現在の水辺
- 工事済み（ふとんかごによる囲い）
- 工事予定



津田江葦帯造型設計図

津田江葦帯造型設計図

1-aの撮影場所

—— 現在の水辺

--- 露を囲む壁の位置

津田江地区計画平面図

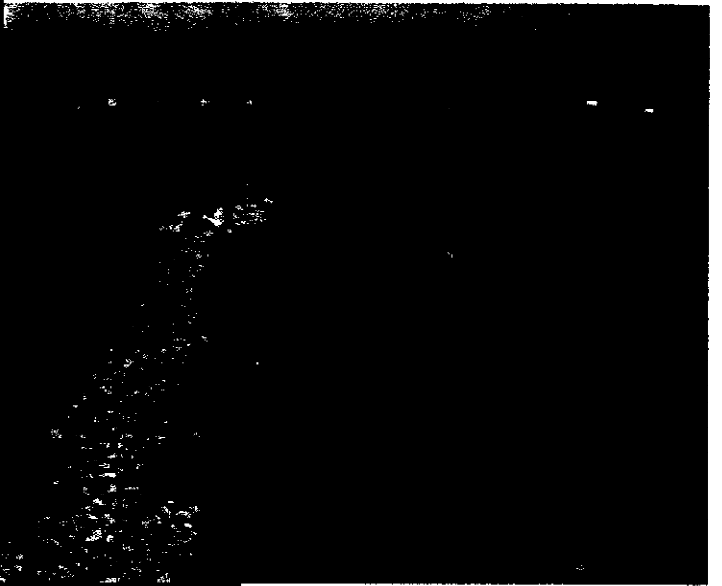
1-b、2-a、2-b
の撮影場所

3- a



津田江の一部がもう既に、このように
つくり変えられました。

3- b



葦の生えている面積は増えましたが、
一定の高さに整えられ、水のほとりも
針金でくくられた石で直線化されました。



3- c

ほんもろこ、にごろ鮎は
産卵できますが、生態系が
単純化されたに違いない。
ここで豊富な種類の生物が
生存できるのだろうか。
はたして、安定した食物連
鎖が望めるのだろうか。
少なくとも直線化され、単
純化された景観には美的感覚
はない。



津田江の東北部の造成工事中。情緒のあった水辺が直線化される光景



シミュレーションで作成した、より望ましい葦帯造成案。
葦のみの単純化された生態系より 柳など他の植物も混ざったバリエーションの
豊富な葦群落。美しい不規則的な曲線で 景観復元にも役にたつ



シミュレーションで作成した 景観創りにも役立つ造成事業案
沖に 柳などまざった葦群落でできた小さい島



ヨシ帯造成事業以前の正常な葦の姿